

授業科目 医療統計学演習(旧カリ)

|                  |      |    |       |                  |
|------------------|------|----|-------|------------------|
| 【担当教員名】<br>速藤 和男 | 対象学年 | 3  | 対象学科  | 作業・健康            |
|                  | 開講時期 | 後期 | 必修・選択 | 3選・3必            |
|                  | 単位数  | 1  | 時間数   | 15(「健康」は前期土曜日集中) |

<概要> 医療統計学という厳密な概念はないが、前期で学んだとおり、保健・医療分野でよく用いられる、統計学的指標や検定方法について実例を検討し、一部コンピュータによる学習(CAD: Computer aid Instruction)を採り入れて理解を深め、将来証拠に基づいた医療(EBM: Evidence-based Medicine)にチームとして参加できる基礎を修得する。

<一般目標: GIO>

将来、証拠に基づいた(Evidence-based)チーム医療に参加するために、保健・医療分野で用いられる、各種の指標や統計学的方法を理解し、正しい検定方法を適用できる。

<行動目標: SBO>

1. 医療統計学で学習した、各種の指標や統計学的方法を適用できる。
2. 正しい検定方法を適用できる(1.及び2.は医療統計学とはほぼ同様である)。
3. コンピュータ学習(CAD)に積極的に参加する。
4. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。

| 回数 | 授業計画又は学習の主題   | SBO |                            |
|----|---|-----|----------------------------|
|    |   | 番号  | 学習方法・学習課題                  |
| 1  | 食中毒の原因究明<br>後向き研究としてオッズ比の計算方法を演習する。<br>(オッズ比はEBMの基本と言って良い)                  | 1,2 | 演習、レポート提出                  |
| 2  | 主要死因のSMR<br>担当の都道府県について主要死因のSMRを計算し、レーダー・<br>チャートに表して担当の特徴を述べる。             | 3,4 | 演習、レポート提出<br>(理由も考えられるとよい) |
| 3  | スクリーニングレベル<br>臨床検査で応用される感度及び特異度の求め方、<br>また最近重視されてきた陽性反応適中度についても演習から学ぶ。      | 2-4 | 演習、レポート提出                  |
| 4  | アンケート調査まとめ<br>アンケート集計した結果について、傾向性の検定や<br>順序統計量の検定について演習によって学ぶ。              | 2-4 | 演習、レポート提出<br>(理由も考えられるとよい) |
| 5  | 平均値の比較のまとめ<br>卒業研究時に最も多用されると思われる、2群の平均値の差の比較<br>について、様々な検定方法とその適用を演習によって学ぶ。 | 2-4 | 演習、レポート提出                  |
| 6  | 検量線と地域相関<br>検量線を描くとともに、地域相関研究の手法を学ぶ。  | 3,4 | 演習、レポート提出                  |
| 7  | 生命表分析<br>特に小数例で用いられるKaplan-Meier法について各自のデータ<br>を通して計算方法を学び、最後に図示して評価する。     | 3,4 | 演習、レポート提出                  |

|        |  |           |       |                  |
|--------|--|-----------|-------|------------------|
| 【使用図書】 | <書名>   | <著者名>     | <発行所> | <発行年・価格・その他>     |
| 教科書    | 医統計テキスト  | 速藤和男、山本正治 | 西村書店  | 1997第3刷・¥2,500+税 |
| 参考書    |  |           |       |                  |
| その他の資料 | 毎回、簡単なマニュアルをプリントして配布する。<br>前記の「医療統計学」で配布したプリントを毎回持参すること。 |           |       |                  |

|  |   |
|--|---|
| 【評価方法】   | 【履修上の留意点】   |
| 1. 毎回のレポートは出席点として考慮する。<br>2. 他の職種の問題に手を加えて、<br>5者択一方式の小テストを実施する。 | 1. 前期の「医療統計学」を履修しない限り、単独では履修できない。<br>2. 前記の「医療統計学」で配布したプリントを毎回持参すること。<br>3. 電卓はプログラムから呼び出せるものの、あった方が計算が早いようである。 |